



ISO 20121規格に準拠したマネジメントシステムの導入について

本日の報告事項

1. ISOマネジメントシステムの概要
2. ISO 20121規格の概要
3. ISO 20121規格の特徴
4. ISO 20121規格の構成
5. ISO 20121規格の骨子
6. 今後の取組
7. ISO 20121規格に基づく方針の策定
8. 今後のスケジュール

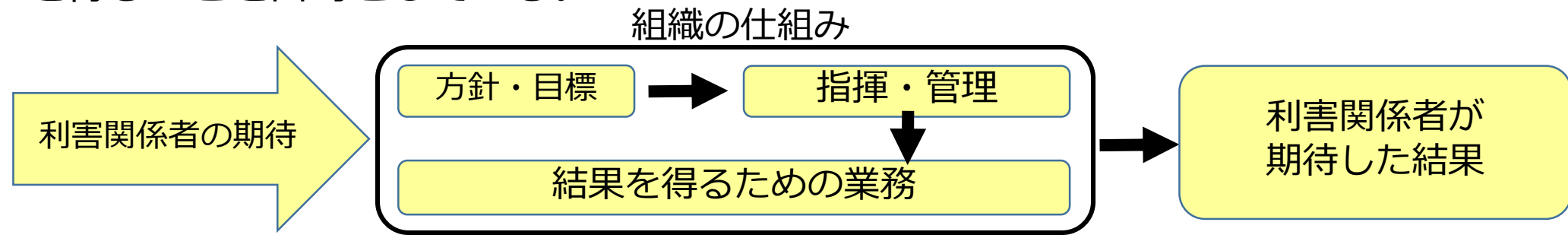
【参考】 ISO 20121規格の要求事項（5.2 方針）

1 ISOマネジメントシステムの概要

参考資料 1

マネジメントシステムとは、目的を達成するために、方針及び目標を定め、組織を適切に指揮・管理するための仕組みを指す。

これにより、利害関係者が期待する結果（例：高品質の製品や環境負荷の少ないサービス）を得ることを目的としている。



組織を管理する仕組みについて、国際的な基準としてISO(※)が制定した規格が、ISOマネジメントシステムである。一般的な例として以下のISO規格が挙げられる。

(例) 品質マネジメントシステム (ISO9001)

顧客に提供する製品・サービスの品質を継続的に向上させていくことを目的とした規格

環境マネジメントシステム (ISO14001)

環境リスクの低減および環境への貢献を目指す規格

※ISO…International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略称。様々な分野の国際的な規格の策定や、国際取引の円滑化等を実施。1947年設立。

2 ISO 20121規格の概要

- ・ 持続可能性に配慮したイベントを運営する組織の仕組みを定めた国際基準
- ・ ロンドン大会に向けて発行された英国規格BS8901を基に2012年に発行

ロンドン大会以降の認証取得状況

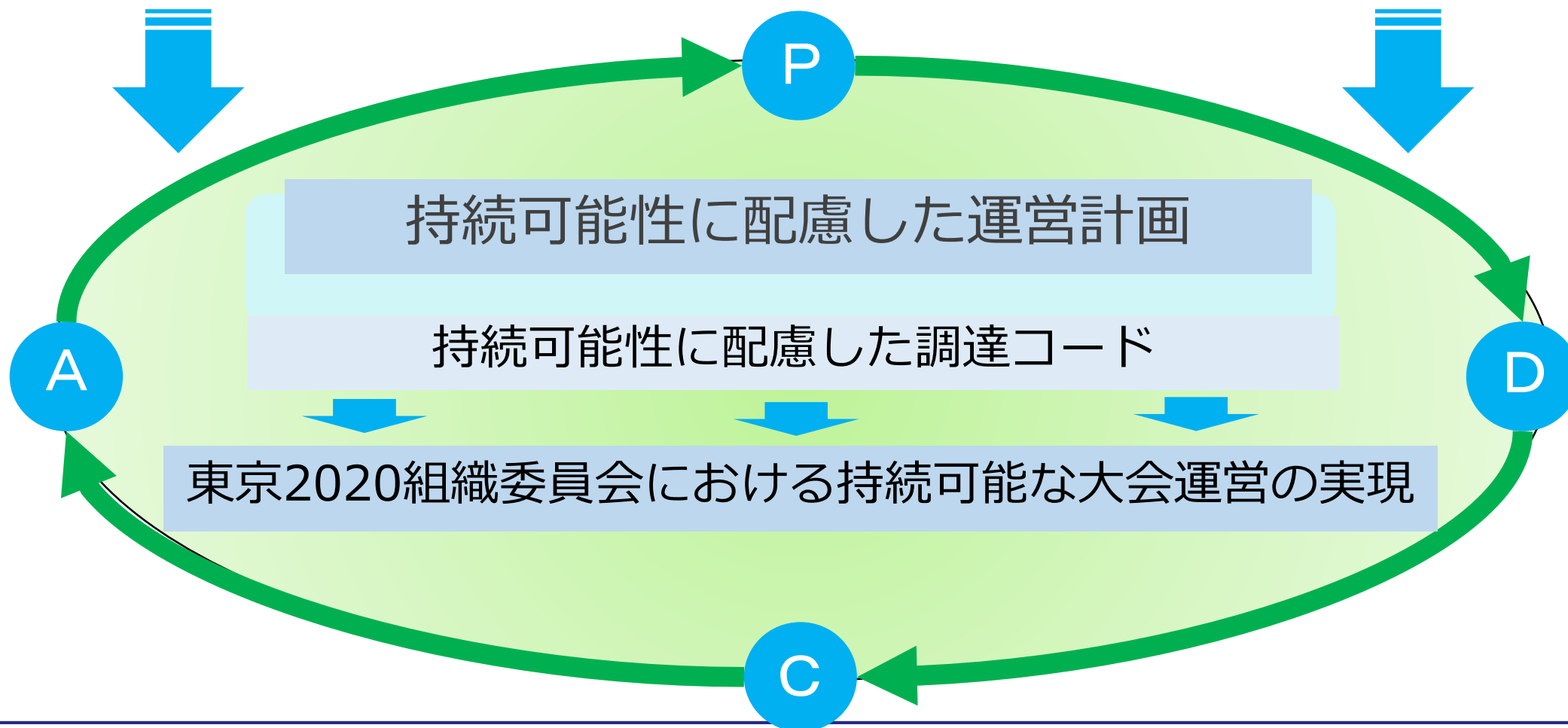
- ・ 2012年ロンドン大会（2012年6月認証取得）
- ・ 2016年リオ大会（2016年1月認証取得）
- ・ 2018年平昌大会（2016年9月認証取得）
- ・ 2024年パリ大会招致委員会（2017年3月認証取得）



東京大会においても、持続可能な大会運営を確実に実施するため、組織委員会においてISO20121の枠組を導入し、マネジメントシステムを運用

2 ISO 20121規格の概要

ISO20121規格の要求事項を踏まえ、PDCAサイクルにより必要な改善を実施



3 規格の特徴

リーダーシップの強化

- ▶ トップマネジメントによるマネジメントの成果の達成への貢献等を規定

ステークホルダーとの連携強化

- ▶ ステークホルダーのニーズ及び期待をマネジメントに反映

ライフサイクルの考慮

- ▶ 課題の特定や組織の活動・サービス等について、ライフサイクル全体を考慮

サプライチェーン管理の強化

- ▶ サプライチェーン全体を考慮し、外部委託するプロセスも含めてマネジメントを実施

成果の重視

- ▶ 取組の監視・測定を行い、成果についての分析・評価を実施

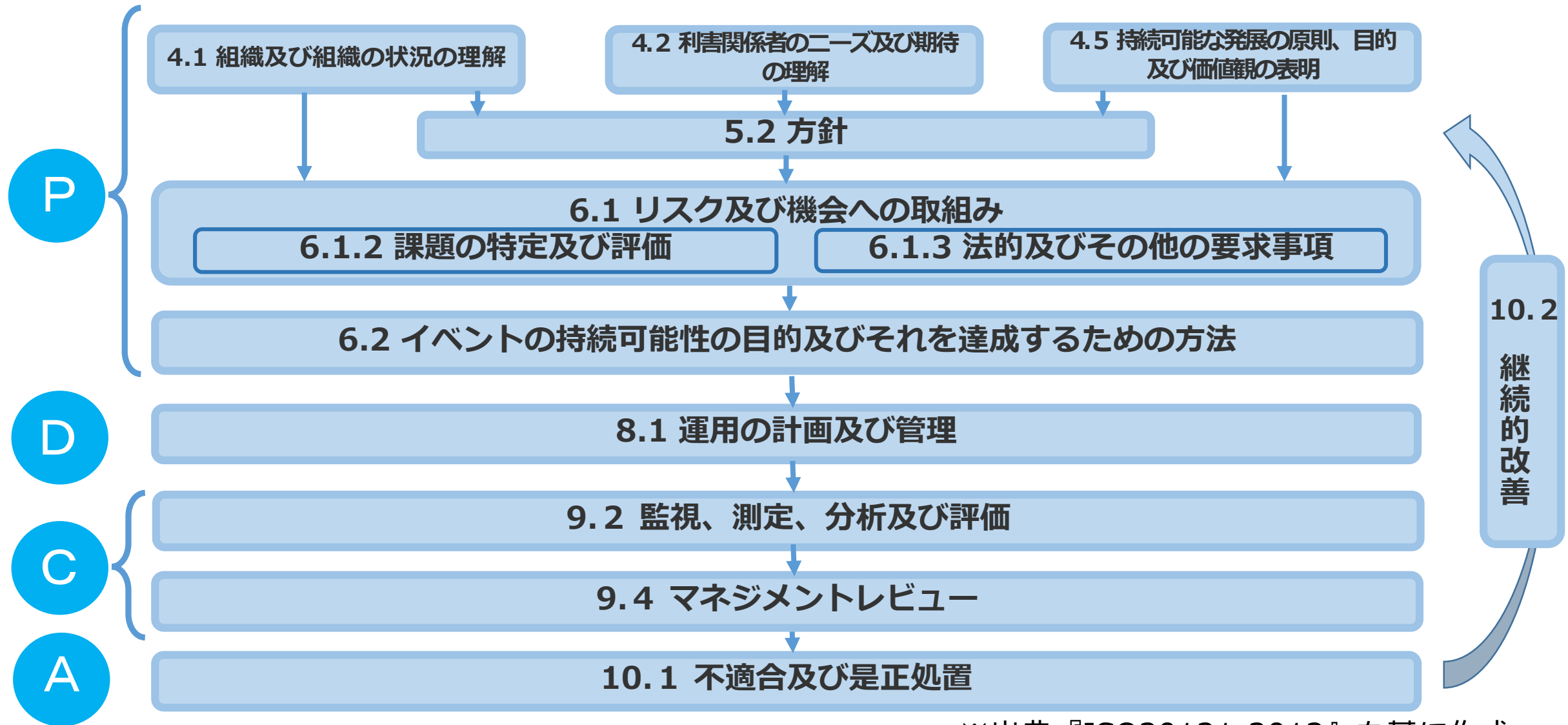
4 ISO 20121規格の構成

| 項番・内容 |
|--------------------------------------|
| 1 適用範囲 |
| 2 引用規格 |
| 3 用語及び定義 |
| 4 組織の状況 |
| 4.1 組織及び組織の状況の理解 |
| 4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解 |
| 4.3 イベントの持続可能性に関するマネジメントシステムの適用範囲の決定 |
| 4.4 イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム |
| 4.5 持続可能な発展の原則、目的及び価値観の表明 |
| 5 リーダーシップ |
| 5.1 リーダーシップ及びコミットメント |
| 5.2 方針 |
| 5.3 組織の役割、責任及び権限 |
| 6 計画 |
| 6.1 リスク及び機会への取組み |
| 6.2 イベントの持続可能性の目的及びそれを達成するための方法 |
| 7 支援 |
| 7.1 資源 |
| 7.2 力量 |
| 7.3 自覚 |
| 7.4 コミュニケーション |
| 7.5 文書化された情報 |

| 項番・内容 |
|-----------------------------|
| 8 運用 |
| 8.1 運用の計画及び管理 |
| 8.2 修正された活動、製品及びサービスの扱い |
| 8.3 サプライチェーンマネジメント |
| 9 パフォーマンス評価 |
| 9.1 持続可能な発展の統治原則に対するパフォーマンス |
| 9.2 監視、測定、分析及び評価 |
| 9.3 内部監査 |
| 9.4 マネジメントレビュー |
| 10 改善 |
| 10.1 不適合及び是正処置 |
| 10.2 継続的改善 |

※出典『ISO20121:2012』を基に作成

5 ISO 20121規格の骨子



※出典『ISO20121:2012』を基に作成

6 今後の取組

ISO 20121規格に沿ったマネジメントシステムの構築

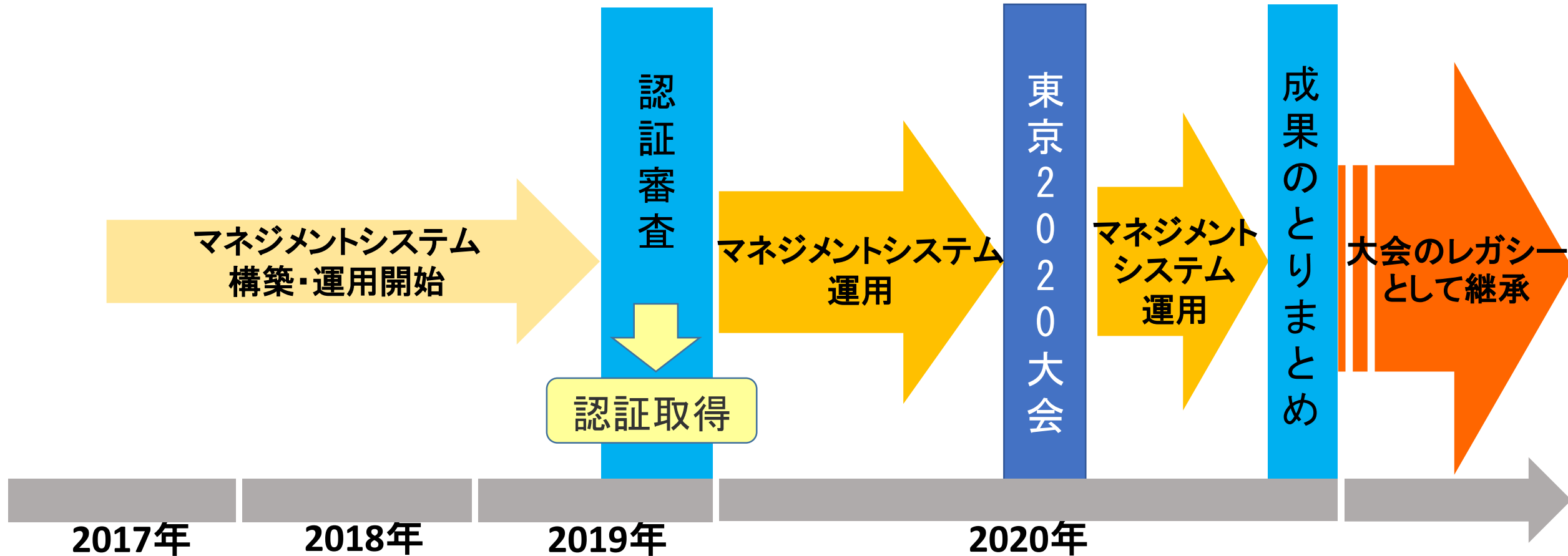
- ISO 20121規格に基づく方針の策定
- イベントの持続可能性の目的及びそれを達成するための方法の決定
⇒ **「持続可能性に配慮した運営計画第二版」**において検討
- マネジメントシステムの運用管理方法の決定
- 監視・測定等の方法、内部監査や不適合の是正措置の手順等の決定
など

7 ISO 20121規格に基づく方針の策定

方針策定の方向性

- 大会開催基本計画、アクション&レガシープラン、持続可能性に配慮した運営計画第二版等の検討状況を踏まえて策定
- ISO 20121規格の要求事項に沿って策定
(【参考】 ISO 20121規格の要求事項 (5.2 方針) 参照)
- 持続可能性に配慮した運営計画第二版の策定に合わせて検討
- 広く一般の方が入手できるようにHP等で公表し、大会における持続可能性の理念を分かりやすく伝えるツールとして活用

8 今後のスケジュール



【参考】ISO20121規格の要求事項（5.2 方針）

参考資料 1

5.2.1 持続可能な発展の方針の確立

※出典『ISO20121:2012』を基に作成

トップマネジメントは、次の事項を満たす持続可能な発展の方針を確立すること。

- a) 組織の目的に対して適切である
- b) 持続可能な発展の目的を設定するための枠組みを提供する
- c) 適用される要求事項を満たすことへのコミットメントを含む
- d) ESMSの継続的改善へのコミットメントを含む

持続可能な発展の方針は、次の事項を満たすこと。

- － 文書化された情報として入手できる
- － 組織内に伝達される
- － 必要に応じて、利害関係者が入手できる
- － イベントの持続可能性に関するマネジメントの領域におけるリーダーシップに対するコミットメントを含める
- － 表明された目的及び価値観との関連性
- － 特定された適用範囲内で、持続可能な発展の統治原則への組織コミットメントを含む

【参考】 ISO20121規格の要求事項（5.2 方針）

参考資料 1

5.2.2 方針情報の文書化

※出典『ISO20121:2012』を基に作成

組織は、方針の情報を文書化して維持すること。

持続可能な発展の方針は、イベントに関連する活動、製品及びサービスの全てに基礎となる考えを示すこと。

持続可能な発展の方針は、次の事項を考慮すること。

- a) サプライチェーン組織（製品、施設・設備、サービス提供者）
- b) イベントマネジメントサイクル、構想、計画から実施、レビュー及びイベント後の活動に至るまでを含む
- c) 利害関係者との関与の結果
- d) エンドユーザーのニーズ
- e) レガシーの課題

大会の暑さ対策

大会の暑さ対策は様々な観点からの検討が必要であり、国、都、組織委員会が連携して取り組んでいる。

